

会計変化の本質の研究： 制度からの実務よび理論の展開に対する逆影響の検討を中心に

A Study of the Nature of Accounting Changes: with a Focus on the Impact of Adverse Effects of the Law on Practices and Theories

澤登 千恵 (SAWANOBORI Chie)

本研究の目的は、外部報告制度を最初に確立したと位置付けられる19世紀イギリス鉄道会社と、それより先に発展し鉄道会社に影響を与えたと考えられるガス会社を取り上げ、彼らの会計実務の発展とその背景を検討することである。本研究では、特に、議会議法制定のプロセスに注目し、議会議法制定のプロセスで主張された「見解」が実務および理論の展開にどのような影響を与えたのかを検討することを目的としている。本研究では、鉄道に関する事柄が議会で取り上げられるようになった1830年から鉄道の国有化が図られた1947年までの議会議資料を、従来の歴史研究に加え、テキスト（データ）マイニングで分析している。当初、研究対象は議事資料と議会議文書から構成される議会議資料のうち議事資料のみであった。具体的には議事資料の中の本会議議事録（上院と下院の議事録）であった。法案作成前の議会議での問題化および法案作成後の議会議での審議を「議会議法の制定プロセス」と位置付け検討を開始した。しかしその後、研究資料の見直しを行い、上院と下院の議事録（議事資料）に加え、議会議内委員会報告書（議会議文書）も研究対象に含めることにした。これは、当該資料を実際に確認してみたところ、法案を作成するプロセスにおいても有識者や実務家による活発な議論が交わされ、そこで主張された見解が、実務に対して、議会議法の制定プロセスと同様のあるいはそれ以上の影響を及ぼした可能性を確認できたためである。上院と下院の議事録と議会議内委員会報告書のデータを1年ごとのテキストファイルとして整理し、ファイルごとに全出現単語の（重みづけされた）出現頻度（の数値）を計算した。いつ、どのようなことが問題視されていたのかを、より精確に把握するために、得られた分析結果を、20年ごとの期間に区切った上で、期間ごとに検討を進めている。具体的には、期間ごとにキーワードを抽出し、各キーワードの数値の変化を観察することによって、いつどのようなことが問題視されていたのかを網羅的、客観的に把握した上で、問題視された事柄についてどのような見解が主張されていたのかについて検討している。

研究成果の一部は、以下のように、報告されている。

"Internal Auditing in Mid-Nineteenth Century American and British Railroads: The Contribution to the Expansion of Direct Control by Internal Auditors," American Accounting Association Conference 2019 (San Francisco). (北海道大学 春日部光紀氏との共同研究・報告。)